

しずおか 県民児協だより

34

第34号
平成29年9月1日発行

[題字：静岡県民生委員児童委員協議会顧問 天野隆玄 書]

編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内 ☎054-254-5224 ㊟054-251-7508

平成29年度静岡県民生委員児童委員協議会総会あいさつ

会長 松下 悦郎

日時 平成29年6月1日 場所 グランシップ会議ホール「風」



みなさんこんにちは、本日は一斉改選後初めての総会ですが、大変お忙しい中、静岡県民生委員児童委員協議会総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

皆さま方には、いつも住民の立場に立った相談支援や見守り等の幅広い活動をすすめ、地域福祉の推進にご尽力いただいていることに、敬意を申し上げます。

また、本日は副知事 吉林章仁様をはじめ多数のご来賓の皆さまには、公務ご多忙のところ、総会にご臨席賜り誠にありがとうございます。

民生委員活動につきましては、日頃より格別なご指導・ご鞭撻を賜り重ねてお礼申し上げます。

さて、本年は民生委員制度創設100周年、児童委員制度創設70周年という大きな節目の記念すべき年であります。この100年は、多くの先輩たちが、それぞれの時代において、常に地域住民の身近な存在として、強い使命感を持ち、大

きな役割を果たしてまいりました。私たちを取り巻く福祉環境は、大きく変化しておりますが、この節目にこれまでの活動を振り返り、歴史ある民生委員制度を将来に向かってさらなる発展をさせ、次の時代に引き継ぐことが、我々の責務と考えています。

100周年の記念大会は、7月9・10日に東京ビッグサイトで全国大会を、11月22日にはグランシップで静岡県大会を開催すべく関係者の皆さま方で準備をしていただいているところでありますが、この大会が、次なる新たな100年に向けたスタートとなりますよう、皆さんとともにお祝いをしたいと思っています。

次に児童委員の活動であります。越川前会長の退任のご挨拶の中にもありましたが、私たちが今、力を注がなければならない課題の一つとして、子どもの問題への対策が重要と考えています。児童虐待の増加は、依然深刻化にありますが、加えて、引きこもりや不登校、いじめ、自殺や子どもの貧困等、さまざまな課題が山積しています。この様な中において、家族だけでは子育てできない、地域の中でその家族・家庭を支えることが必要と考えております。私たちは、民生委員と同時に児童委員を兼ねていることを再認識し、地域住民をはじめ、関係機関また団体との一層の連携を図り、子ども・子育て支援活動等々をすすめていただきたくお願い申し上げます。

さて、今回の一斉改選において新たに多くの皆さまを民生委員児童委員の仲間として迎え入れることができました。制度創設100周年という記念すべきこの1年が、これからの民生委員児童委員制度にとって意義あることとなり、そして、その活動が人々の幸せにつながるよう、皆さまの引き続きの御支援をいただきたくお願い申し上げます。

終わりにあたって、皆さまにとって本年度もいい年でありますよう、また、ますますの御健勝、御多幸を心よりお祈り申し上げ挨拶いたします。

平成27～28年度 研究地区民生委員児童委員協議会 活動報告

民生委員児童委員活動の振興を目的とした助成事業で、平成27～28年度に指定された、南伊豆町民児協・袋井市第四地区民児協の2民児協の活動報告です。

●南伊豆町

民生委員児童委員協議会

1 はじめに

わが国では、2025年には高齢者の5人に1人、約700万人が認知症になるといわれています。高齢化率がすでに40%を優に超え、国の高齢化率の何十年も先を行く南伊豆町では、認知症の人やその家族の悩みに寄り添い支えていくために、民児協としての役割は何か、検討しました。

2 グループワークから課題を抽出

- ① 委員の認知症に関するスキルアップが必要である。
- ② 家族の認知症に関する知識不足、家族には相談できない多くの悩みがある。
- ③ 在宅で認知症の家族を看取るという地域住民の意識が醸成されていない。
- ④ 介護保険や家族だけで支えられない部分を地域が今後どのように支えるか。



グループワークの開催

3 課題に対応する方策

- ① 委員は、各種研修や講座などに積極的に参加しスキルアップを図る。
- ② 行政と協働し情報共有を図り、いつでも支援できる体制構築。
- ③ 本人・家族、地域住民が認知症を早期発見できるような小冊子を作製・配布。
- ④ 地域と連携・協働を推進し、地域住民との連帯感の醸成。
- ⑤ サロンやカフェを立ち上げ、地域の人たちが気楽に集まれる場の提供。
- ⑥ 本人や家族を孤立させないよう地域を挙げた見守りネットワークの構築。

4 まとめ

私たちは今回、認知症の人やその家族の悩みに寄り添い、どのように支えていくか取り組んできました。そんな中、認知症は発症する10～15年前から兆候が始まることを知り、早期発見・早期治療が大切で、見守り活動

の充実こそが委員の持ち得る最高のツールであり手段であることを学びました。

世の中には不安感や孤独感、負担感などを抱えながらも、精一杯日々を生きようとしている認知症の人やその家族がおります。私たちはその人や家族にとって良き理解者、良き相談相手、気兼ねなく声をかけてもらえる存在になることを改めて目指し、また、認知症高齢者の見守りネットワークの一員として、地域や行政と協働していきます。



地域におけるサロンの立ち上げ

●袋井市第四地区 民生委員児童委員協議会

地域で抱えている課題は、複雑で深刻化しています。まずは、各担当委員が地域の実態を把握することが一番大切な事だと思っています。地域の状況を知ってこそ、目標に向けた活動が出来るものと考えます。将来地域が抱えている諸問題をどの様に考えていくか、ただ活動数を増やすのではなく、時代の流れと地域性に合った、充実した活動を進めていく為に、関係機関との連携の強化に取り組んできました。平成二十八年度事業方針(基本目標)担当地区の現状を今一度把握しよう

一、住み慣れた地域住民の福祉向上を強化するため、日常の相談支援活動のつなぎ役として定期的な「気配り、目配り、見守り」活動を活発に実施します。

二、行政・関係機関との交流を積極的に進めると共に「研修会・勉強会や事例発表会」を開催し「地域力・福祉力」の向上に繋がります。

三、災害時要援護者支援活動充実の為「自治会・自主防災隊・民生委員」のネットワークづくりに重点を置き、平常時の体制整備を強化します。

重点研究テーマ

単位民児協機能強化

- (1) 行政・関係団体との連携強化
 - (2) 自治会との連携強化
 - (3) 学校との連携強化
 - (4) 地域との関わり強化
 - (5) 委員研鑽機会の充実
 - (6) 顔を知ってもらう
- 地域コミュニティを充実しよう
☆行政・関係団体・学校・地域との連携

地域包括ケア推進課との関係は、保健・医療・介護・福祉の仕組みづくりの学習会や、地域でみんなで助け合う「自助・互助・共助・公助」の大切さを修得して、福祉の向上に努めてきました。

地域包括センター職員との交流会は、包括だよりを基に、事例発表や情報交換、問題を提起し、一番の繋ぎ先として、連携の強化に力を入れてきました。

自治会との連携強化では、相互の事業に参加して交流を深め、地域の一人暮らし問題や、見守り活動の重要性を確認し合い、守秘義務や福祉活動の大切さと情報の共有をしてきました。

学校との連携強化は、授業参観を兼ねた生徒の様子、学校と家庭の関わり、地域への学校からの要望等、校長先生から話を聞いて、児童の安全対策に取り組んできました。

さようならの挨拶運動

毎月第3水曜日を民生委員児童委員の日と位置付けて、挨拶運動を実施してきました。児童から大きな声が返ってきて、顔の見える関係が定着してきました。

目的は、児童に顔を知ってもらうことです。



気をつけてネ

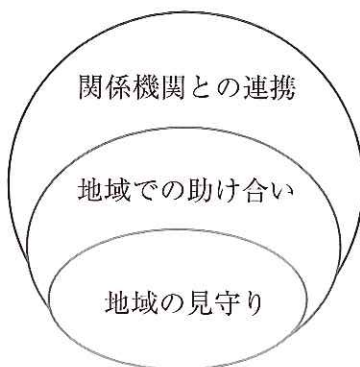
ふれ合い・いきいきサロンとの交流

ふれ合い支え合う仲間づくりが、自治会単位で楽しく明るい交流が盛んに行われています。出会いを大切に、特技、趣味、歌等、お互いが披露して「会話の絶えない」遊び場として、気軽に語り合える輪が広がっています。保健師や看護師による健康相談や、健康増進である「でんでん体操」など、ふれ合い支え合う仲間づくりの居場所として、民生委員も参加して楽しい活動が今日も行われています。



楽しいよ

地域コミュニティが充実



二年間の活動を通して感じたことは「行政・地域・関係機関」と連携を密にしていくなかで、仕組みづくりや、地域の環境と地域の特性に合う活動こそが、大切な事と感じました。「地域で出来ることは地域で行う」自治会・自主防災隊・民生委員・児童委員がネットワークを構築し、情報を共有して、自助・互助活動の推進が重要かと考えます。地域包括支援センターを基軸に、支援体制の繋ぎ先として一層の連携強化に努めます。今後も、地域を支える福祉リーダーとして、民生委員・児童委員の自覚と責務を担っていきます。



自治会長との懇談会

ひろば

民生委員制度創設100周年記念
全国民生委員児童委員大会に参加して



伊東市
民生委員児童委員協議会

稲葉 義彰

去る7月9日、東京ビッグサイトを会場に天皇皇后両陛下ご臨席のもと、全国代表者約1万人が出席した、記念大会が行われた。式典後、鎌田實氏による「あたたかい社会をつくる」をテーマとした講演。家族一緒にごはんを食べると、何かが変わる。又、民生委員の一言は大事。それで変わる人もいる等、ユーモアを交えての話、身にしみた。講演後、スローガン『支えあう 住みよい社会 地域から』を承認し、1日目終了。

翌10日は、テーマ別研修。その中で、本県の磐田市南部地区の発表を聞いた。テーマは『高齢者の日常生活上のニーズの把握と、その対策を考える』アンケートや福祉セミナーを実施し、課題をとらえた。その中から、活動のキーワードを探り出した。①友達以上親戚未満 ②支え合いおせっかい ③民生委員卒業後の生きがいの3つ。どれも我が地域でも取り入れたいものばかり。

この2日間を通して感じたのは、民生委員児童委員のパワーである。これから先、150周年、200周年へと向け、地域のよき相談相手として、共に歩んでいきたいと思う。

私の信条「一期多会」



西伊豆町
民生委員児童委員協議会

清野 悦子

民生委員、本当に大変？
今、委員のなり手がいなくて、どこの地区でも、不足しています。

私の地区でも4人不足しています。私は今回の改選で3期目になります。確かに難しいのは「守秘義務」です。3期目になると、慣れ合いが出て、つい口に出してしまう事もあります。しかし、一人暮らしの高齢者を見守りするには、他の人の意見も必要になります。まして、認知症の症状が出始めた時などは、なおさらです。身内の人が近くに居れば助かりますが、そうでない時は、隣近所の人に様子を聞く事にもなります。「個人情報だから、人には言わないで」ではなくて、「ちょっと物忘れが出て来たので、皆で見守っていいよ」と言えば角もたちません。民生委員の基

人と会え 話せ



裾野市
民生委員児童委員協議会

清水 義信

民生委員児童委員の活動を始めて、三期7年目になります。気負いは有りませんが地域の一人としての存在を感じています。

活動当初、意外と地域の実態を把握していない事に驚きました。一人暮らしの老人・一人親の多さ、心身に障がいを持っている方、老人会・子供会・自治会などの実情など。

そこで、地域の目となり耳となるために、毎日歩くことを心掛け、人と会い、話す事を目標としました。そうする事で、ことさらに安否確認に出かけなくても、必要とする情報の多くを得る事が出来ます。また、自分の健康管理対策にもなり、一石二鳥です。

世代間交流の必要性も感じています。活発になってきている地域サロンも、幅広い年代層に参加を求めれば、さらに効果が上がると思います。

積極的に事例に関わり、かつ負担感を少なくするためには、どこまで踏み込むかの判断と割り切りが必要だと思います。関係機関へのつなぎ役である事が第一と考えています。

碁も将棋も人工知能に敗れ、人生相談も人工知能が回答するような時代になっても、フェイス トゥ フェイスで相談支援活動をする民生委員児童委員の存在は、ますます必要になると思います。

ひろは

変わりゆく自分



焼津市
民生委員児童委員協議会

齊藤 隆俊

民生委員になって3期目に入りました。1期目は与えられた仕事を深く考えもせず、ただただ言われた通りにこなしているだけでした。どちらかと言うと内向きな私は、知らない人との会話が苦手で「訪問」は悩みの種でした。自分は民生委員には向かないと思いました。自分が「最低2期、出来れば3期」の言葉に乗せられて2期目に入り、重き荷を背負うことになりました。

人前では喋ることなどなかった私ですが、地区会では議事進行役となり、衰え行く頭を叩いて内容の把握に努め、説明ができる様に資料を繰り返し読み直す等、嫌でも業務に係る時間が多くなり、仕方ないと半ば諦めの心境で、とうとう3期目に突入してしまいました。

当然今までよりも更に大変になってきましたが、この辺りで本題にかえて、今思うと民生委員になってからの自分は、それ以前の65年間に比べて進歩しているような、そんな気がします。他人と自然に無理なく話す事ができるようになり、人前で話すことができるようになりました。何よりも世間を知る事ができたことが、漠然と生きてきた自分にとってこれからの人生を大切に導いてくれる事だと思います。

和と輪を「つなげる心」



牧之原市
民生委員児童委員協議会

牧野 英恵

七期二十一年の任期を全うされた、今は亡き大先輩から委員を引き継ぎ早六期十六年を迎えております。

つたないながら介護をした「要介護5」の母は百四歳にて旅立ちましたが、その母の理解、協力もあつたからこそ委員活動を続けられた当時を思い出します。

近年、地域の福祉課題も複雑化、多様化していますが、私も牧之原市相良地区民児協五十一名は「心をつなぐ」を合言葉に、和と輪を築きつつ全体研修、部会・支部会別研修、独居の高齢者宅への給食サービス、障がい者施設への散策介助、地域では、サロン活動、施設ボランティア活動等、また、自治会のご理解、ご協力をお願いしつつ幼児児童、小中学生の見守り、防災訓練、等々の各種活動を実施しております。

多忙な委員活動ではありますが、現場に直面する者としてさりげない優しさを心に、何となく交わす「お蔭様です」の言葉が支え合いつつが私達の原点であると己に言い聞かせています。

先達の想いを糧とし、民生委員制度創設百周年、児童委員制度施行七十周年という節目を任期中に迎え今後も自己研鑽を重ねながら、支援活動を続けていきたいと思っています。

地域デビューへの近道



磐田市
民生委員児童委員協議会

中津川 年弘

先日「暑中見舞いの葉書をいただいてありがとう」と町内の高齢者からお礼の言葉をいただきました。地区民児協で取り組んでいる暑中見舞い作戦です。

会社人間だった私は、朝早くから家を出て、夜遅く帰ってくる生活でした。他地区から越えてきて9年程、なじみも比較的薄かったこともあり、地域の事は家内まかせでした。定年退職直後に「地区簡易水道の管理者を」という話が来しました。そろそろ地域の為になにかしないと、思っていたので引き受け1年任期でしたが3年務めました。3年目の終わりに近づいた頃、民生委員を、と当時の民生委員と自治会長が2、3回話に見え、押し切られて引き受けることとなりました。あれから10年、色々ありましたが振り返ってみれば、受けたおかげで地域の事もわかり、地元に溶け込んでいく事ができたと思います。昨年も「町内でいきいき百才体操を取り入れたい」提案したところ、民生委員が言うならやってみようという受け入れてくれ、既に1年続いています。町内の人達に認知されたんだなあと実感しています。

会社人間が地域デビューするのになかなかチャンスが無く、家で焼けている人が多々見えますが、一歩踏み出せば世間がすぐ仲間に迎えてくれます。新しい友達もたくさんできます。その手段として、地域の事もよく知り、自分自身の勉強にもなる民生委員は最適ではないでしょうか。

民生委員制度創設100周年記念 全国民生委員児童委員大会に参加して

静岡県民生委員児童委員協議会 副会長 杉本 正



天皇皇后両陛下御臨席

平成29年7月9・10日、東京ビックサイトに於いて、全国から10,000人が参加し、民生委員制度創設100周年記念全国民生委員児童委員大会（東京）が天皇皇后両陛下の御臨席を賜り開催されました。

得能金市全国民生委員児童委員連合会会長の式辞、塩崎厚生労働大臣、小池東京都知事等各々から、100周年大会として先輩民生委員、関係諸氏の功績と今後を担う我々に対し、誰もが安心して、安全に暮らせる地域づくりに向け地域と共に尽力願いたい旨の挨拶がありました。

民生委員活動功労者特別表彰等につき、記念講演で諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實氏（医師・作家）により、「あたたかい社会をつくる」と題し講演された言葉の一部を紹介させていただきます。

○人間の生き方は父母、先生、民生委員…など、誰かの一言で変わる、その誰かが誰かとはいえないが。

○相手の身になるとは。逆の立場で、今、自分に何があったら嬉しいか。

○人間は手を差し伸べられないと生きる力が無くなる。一方、手を差し伸べられると生きる力が生まれ、絶望が希望になる。など、教示されました。そして、

日本の民生委員は地域のコミュニケーションを100年支え続けて来た。その延長線上に希望がある。全国民がこの活動を理解してくれ、希望が持てる社会になって欲しい。「簡単に民生委員をやめないうで継続して欲しい、この

国のために……」と講演を結ばれました。

この他、これからの民生委員・児童委員活動に関するスローガン「支えあう 住みよい社会 地域から」の決定・報告と「誰もが笑顔で、安全に、安心して暮らせる社会」の実現に向け、新たな歴史の一步を踏み出す「大会宣言」が10,000人の拍手で採択されました。2日目は6分科会場に於いて、これからの民生委員・児童委員活動、地域共生社会の実現に向けて、子ども達の未来のためになど、テーマ別に熱心な研修が行われ、さまざまな問題が顕在化し、深刻化している今日、課題解決に向け、101年目を担う私達に強い決意をもたらした民生委員制度創設100周年記念 全国民生委員・児童委員大会でありました。



会場内の様子

平成29年度 大会等表彰の紹介（敬称略）

●厚生労働大臣特別表彰
加藤 猛（伊東市）

●全国民生委員児童委員連合会会長表彰

優良民生委員児童委員協議会
三島市錦田地区

民生委員児童委員協議会



厚生労働大臣特別表彰

民生委員制度創設100周年記念全国民生委員児童委員大会

次のとおり「大会宣言」が採択されましたので、御報告いたします。

大 会 宣 言

本日ここに、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、民生委員制度創設100周年記念全国民生委員児童委員大会を挙行するところとなりました。

民生委員制度は、人びとの防貧をめざし、大正6年、岡山県で創設された済世顧問制度に始まり、翌年、大阪府で創設された方面委員制度が全国に広がり、戦後、民生委員制度と改められ、本年、100周年の節目を迎えるところとなりました。

この間、時代とともに社会の姿は変化し、それに応じて国民が直面する生活課題もさまざまに変化してきました。しかし、いつの時代にあっても、私たちの先達は常に「良き隣人」として人びとに寄り添い、身近な相談相手となり、行政などへのつなぎ役となってきました。そうした実践が人びとの信頼を得、民生委員制度は社会に根付き、我が国が世界に誇るべき財産ともなりました。

その活動は、住民の個別相談のみならず、全国の委員の力を集結した「モニター調査活動」を通じて社会の見えづらい課題を明らかにし、その解決のための支援制度創設を行政に働きかけることで社会福祉諸制度の充実に貢献するとともに、戦後の世帯構成運動、心豊かな子どもを育てる運動をはじめ、自らが先頭に立って、より良い社会づくり、福祉のまちづくりに取り組んできました。

今日、急速に進む少子・高齢化や地域社会の変化のなかにあつて、さまざまな課題が顕在化し、深刻化しています。また、相次ぐ大規模災害の被災地にあつては、今も多くの人びとが厳しい状況に置かれています。さまざまな課題を抱える人びとを支え、地域の課題を解決していくために、地域住民自らが積極的に参加し、人びとが支え合う「地域共生社会」の実現がめざされ、私たちにも大きな期待が寄せられています。

本日、全国23万人余の民生委員・児童委員を代表してここに集った私たちは、先達の努力と情熱にあらためて思いをいたし、その上にたつて「誰もが笑顔で、安全に、安心して暮らせる社会」の実現に向けて新たな歴史の一步を踏み出すにあたり、強い決意をもって次のとおり宣言します。

- 一、「民生委員児童委員信条」を胸に、常に地域住民の立場に立った活動を行います
- 一、地域共生社会の実現に向けて、地域のつながり、地域の力を高めるために取り組みます
- 一、さまざまな課題を抱えた人びとを支えるために、幅広い関係者、関係機関との連携・協働を一層進めます
- 一、我が国の未来を担う子どもたちが健やかに育つことができるよう、子育てを応援する地域づくりに取り組みます
- 一、民生委員・児童委員制度を守り、発展させていくため、住民にとってより身近な存在となるよう周知活動に取り組み、その理解を広げます

平成29年7月9日

民生委員制度創設100周年記念 全国民生委員児童委員大会

民生委員制度創設100周年を記念した、これからの民生委員・児童委員活動に関するスローガンが、全国4600通を超える応募の中から決定しました。

これからの民生委員・児童委員活動に関するスローガン

支えあう 住みよい社会 地域から

民生委員制度創設100周年記念 全国民生委員児童委員大会 小規模発表集会発表要旨

全国民生委員児童委員大会第2日目テーマ別研修Ⅵ「小規模発表集会」では、今後の民生委員・児童委員活動の充実発展に向け、各都道府県・指定都市を代表して

134の単位民児協の取り組みが発表されました。静岡県からも、小山町民児協、磐田市南部地区民児協が発表し、全国の委員との交流を図りました。

編集後記

このたび、何もわからないまま、編集委員引き受け、少し後悔しているところですが、

何を書こうか考えている時、「民生委員制度創設100周年記念 全国民生委員児童委員大会」が開催され、私も掛川からバスで東京へ出かけました。すばらしい式典で、100周年の記念大会に参加し、全国の民生委員・児童委員の皆さんにお会いし、熱気やパワーを感じました。私たちも、気を引き締め、決意も新たに、この済世顧問制度からの歴史ある制度を、先人達の苦勞を思いながら、時代にあった地域の相談役としてがんばっていかうと心に誓った次第です。

2日目の研修は、歴史ある東京大学安田講堂で勉強できたことに感謝し、久しぶりの東京を後にしました。人々と接し、自らの人格の向上と、感謝の心を持って接する大切さを痛感しました。

このような機会を与えていただけたことに感謝しています。

(森)

「自然災害発生時における民生委員児童委員の活動」

～台風水害と雪害の経験を活かして～



取り組みの契機

町民が災害ボランティアセンターを設置し、民生委員や自治会関係者と連携

平成22年9月 台風9号豪雨災害

9月8日(水)、台風9号に伴い、小山町に1時間に100mmを超える記録的な大雨が降り、河川が増水し、土砂崩れや道路・橋樑、農地の崩壊など町内には深い被害を及ぼした。

平成26年2月 記録的雪害

2月14日から15日にかけての記録的な積雪に伴い、浜北地区全体において、甚大な被害を受けた。

静岡県小山町民生委員児童委員協議会
副会長 岩澤 英子



平時における民生委員活動を強化していくためには？

取り組みの内容

普段の民児協活動を活かす！～特別なことは長続きしない～

- ① 独居高齢者宅等の訪問時における声掛け
 - ② 自治会や自主防災組織との協調・連携
 - ③ シニアクラブや障害当事者団体との交流
 - ④ 認知症サポーター養成研修への参加による理解促進
 - ⑤ 法定民児協定例会の開催時における研修会の開催
- ア 精神障害者施策
イ 社会福祉協議会活動
ウ 今後起こりうる富士山噴火災害など



取り組みの効果と影響

- ✓ 気負わずに、地域住民の一員として活動する大切さを実感
- ✓ 民生委員活動と防災・減災活動をつなげることができた
- ✓ 災害時における連携協力体制に、民生委員児童委員が関わっている
- ✓ 熊本地震などの大規模災害の教訓を活かす意識が生まれた
- ✓ 要援護者のニーズを行政や社協につなげるための体制を確認できた
- ✓ その他

災害発生時には住民への安心情報の提供

被災住民への安心情報を適宜伝えていくことが大切
(ライフラインの復旧や除雪の進捗状況など)



現状の課題や今後の抱負

3年ごとに半数の委員が選任し、民生委員活動の低迷が懸念されるが・・・

新たな世代と地域人材の活用につながる！

サラリーマン民生委員(昼間不在)が増えているが・・・

昼間はシニアクラブ等のパワーを借りる！



災害時に一人も見逃さない運動

選任後の民生委員を一人も見逃さない運動！

研修を積み上げた民生委員児童委員活動の発展

「高齢者への支援」『せいかつ応援クラブ』

～いつまでも地域で暮らし続けるために！～

【発表者】磐田市南部地区民生委員児童委員協議会 会長 中津川 年弘



【磐田市南部地区の概要】※平成29年3月末現在

人口 17,148人 高齢化率:29.0%

世帯数:6,660世帯 自治会数:25自治会

(天竜地区10自治会・磐田地区4自治会・長野地区9自治会)

民生委員・児童委員:30人・主任児童委員2人

地区社会福祉協議会:2地区(南地区、長野地区)

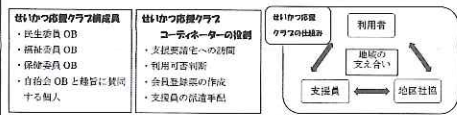


- 1 取り組みの契機 ～2年間の研究活動とその後の取り組み～
○平成21～22年度にかけて、全国民児協ならびに静岡県民児協から研究地区民児協として指定を受け、研究活動を展開した。
○研究地区民児協の活動の目標を「地区民児協の機能強化と福祉のまちづくり」と定め、具体的取組テーマを『高齢者の日常生活上のニーズ把握とその対策を考える』とした。
○いつまでも地域で暮らし続けるために、住民同士で何ができるのかを既存の住民組織である地区社協や関係機関とも協働しながら検討を重ねた。

- 2 取り組みの内容
【福祉アンケートの実施】 調査回収率97.7% (485世帯/500世帯)
調査対象:民生委員が把握している高齢者世帯 444世帯から500世帯を抽出
アンケート結果から見た課題
・通院や買い物に行くのが大変 ・心配ごとや悩みごとの相談窓口が近くに欲しい
・日中一人だけのため、話し相手がいらない ・ゴミの集積所が近いので出るのが大変
・足腰が悪いので、車の取りも大変
【地域福祉協議会の実施】
テーマ「みんなで語ろう、地域の福祉力」、「地域総合学習で地区の問題解決にトライ！」
アンケートの結果をふまえて地区内2自治会の協力を得て、懇談会(各2回)を開催
【地域福祉セミナーの実施】 テーマ「これからの『ご近所付き合い』はどうなるの？」
地域福祉協議会の結果をふまえて、地区内2地区社協の協力を得て、セミナー開催

3 取り組みによる成果と影響 ※「せいかつ応援クラブ」についての説明は別紙チラシ参照

- 検討を重ねていく中で、地域の少子高齢化が一つの課題だという声が上がリ、防災関係、地域が決め手となる課題の課題として、共通認識を持つことができた。
- 南部地区民児協、二つの地区社協、自治会、交流センター、市社協、地域包括支援センターが連携し、磐田市社会福祉協議会が事業推進している「住民参加型生活支援事業「せいかつ応援クラブ」」を、南部地区でも取組んでいくことになった。
- せいかつ応援クラブを実施したことにより地区社協活動に次のような成果・影響があった。
・民生委員児童委員が把握した支援が必要な人のニーズをせいかつ応援クラブに繋げ、地域住民の方で継続した支援が行えるようになり、地域で支える限界点を上げることができた。
・「地区社協の見える化」の具現化であり、地域に分かりやすい福祉活動に直結した。
・地域の人材の発掘と地域福祉活動の継続性の確保になる。
・「地域デビューの経験」は、「健康寿命の延伸」にも有効である。(社会参加促進)



- 4 現状の課題や今後の抱負
○地域福祉協議会やセミナーでの協議を経て感じてきた思いを、一貫性にとわらせず継続可能な活動に広げていかなくてはならない。
○福寿齢社会に一般と市街地が異なり、若者が都市部に流出して戻ってこない、高齢者のみ世帯が増えている、昔のように3世代が同居することは望めない時代となった。
○こうした新陳代謝の停滞のもと、お隣同士、住民同士の支え合いが必要である。
○団塊の世代や若い世代を無理なく地域活動に取り込んでいくことが大切である。
○民生委員児童委員選任者をはじめ、いろいろな役を担った人達にも積極的に声をかけ地域活動を活性化させていきたい。
- 活動のキーワード
・「友誼以上！ 親戚未満！」
・「支え合い = おせっかい！」
・「民生委員だから感じられる♡」
民生委員卒業後の生きがい♡

